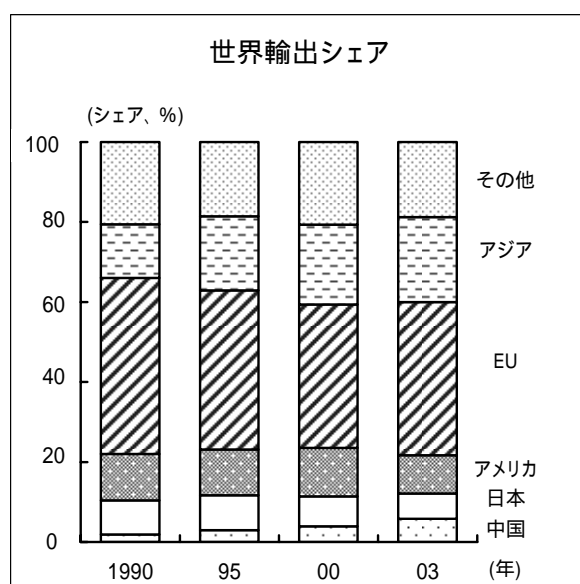


(備考) 1. IMF “World Economic Outlook”(2004年9月)による。
2. 世界輸出と輸入の伸び率の平均。
3. 財貿易、数量ベース。



(備考) IMF “Direction of Trade Statistics”による。

<2004年～2005年の動向>

2003年の世界貿易(財、数量ベース)は、前年比5.5%増と、2002年に引き続き増加した。背景には、世界経済の回復に伴いIT関連製品が堅調に増加したことなどが挙げられる。金額ベースで見ると、世界輸出は前年比17.2%増加し7兆5,353億ドル、世界輸入は同18.4%増加し7兆8,797億ドルであった。先進国では、EUや日本が、途上国では、中国やアジア諸国での伸びが目立つ。

IMFによれば、2004年の世界貿易(財、数量ベース)の伸びは9.1%、2005年は7.4%となっており、世界貿易は世界の景気動向とあいまって、2004年に増勢のピークを迎え、2005年は増勢をやや緩めると見込まれている。

<各国・地域の動向>

主要国・地域ごとにみると、アメリカでは、2002年の前半を底に輸出、輸入ともに増加基調となっている。IMFによると財ベースの輸出数量については、2004年は9.0%、2005年は8.1%となっている。また財ベースの輸入数量については、2004年は9.8%、2005年は5.0%となっている。

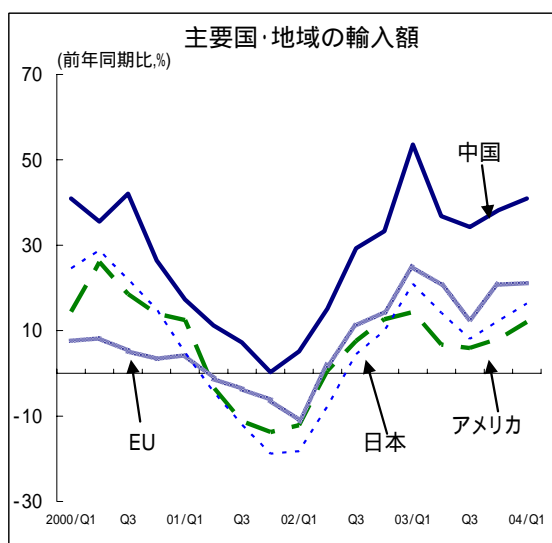
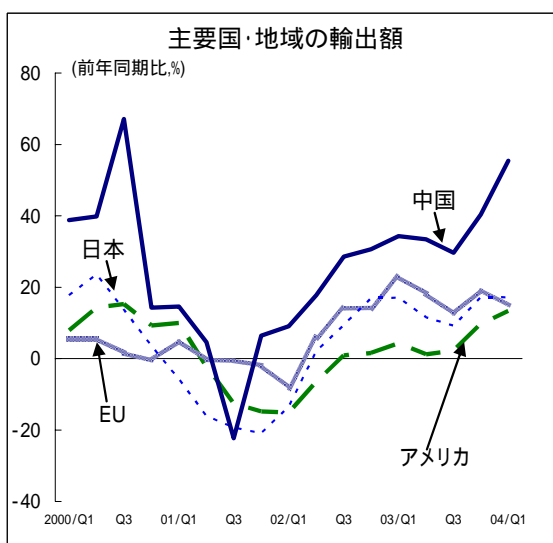
また、EUでは財ベースの輸出数量については、2004年は6.3%、2005年は5.8%となっている。特に、2004年はドイツが同10.7%とEUをけん引している。また財ベースの輸入数量については、2004年は5.7%、2005年は5.8%となっている。

アジア地域では2002年1～3月期を底に、輸出入ともに急速に回復している。IMFによると、中国・インドを含むアジア地域で、輸出は財ベースの数量で2004年に15.8%、2005年は16.5%増、同輸入は、2004年に18.2%、2005年は17.9%増となっており、他の地域よりも高い伸びが

見込まれている。アジア地域は、他の国・地域と異なり、2005年に増勢を緩やかにしていない。また、アジア各国・地域での域内貿易、対中輸出は増加傾向にある。

<急速に伸びる中国の貿易量>

このような中で、引き続き中国の輸出・輸入の伸びは著しい。2004年1～3月期の輸出額・輸入額の伸びは、それぞれ前年同期比55.4%、40.9%と高いものとなっている。世界輸出の増分における各国シェアの推移（90～95年の5年間と直近98～2003年の5年間との対比）をみても、中国でのシェアの伸びは著しい。また、中国では高成長に伴い、原材料、資本財等の需要が増大しているが、その中で、原油需要のシェアについてみると、他の地域と異なり、今後2004年から2005年にかけてさらにシェアを伸ばすと見込まれているなど、同国の動向には留意が必要である。



(備考) 1. IMF “Direction of Trade Statistics”による。
2. 金額は名目。

(備考) 1. IMF “Direction of Trade Statistics”による。
2. 金額は名目。

世界輸出の増分における各国シェアの推移 -中国でシェア増大-

	日本	中国	アメリカ	EU	アジア	その他
90年～95年 までの5年間	9.2	5.1	11.2	31.2	28.7	14.6
98年～03年 までの5年間	4.0	11.9	2.0	34.0	28.7	19.4

(備考) 1. IMF “Direction of Trade Statistics”による。
2. 金額(名目)ベース。

世界における各国・地域の原油需要シェア

	2003年実績		2004年見込み		2005年見込み	
	需要(日量100万バレル)	シェア(%)	需要(日量100万バレル)	シェア(%)	需要(日量100万バレル)	シェア(%)
アメリカ	20.03	25.2	20.41	24.8	20.64	24.6
EU	15.32	19.2	15.61	19.0	15.75	18.8
中国	5.52	6.9	6.36	7.7	6.84	8.2
日本	5.58	7.0	5.46	6.6	5.40	6.4
世界	79.64	100.0	82.16	100.0	83.92	100.0

(備考) I E A (国際エネルギー機関) 2004年9月